

## E 多数のホームヘルパーが濃厚接触者と判断された時の 訪問介護事業所の対応

A訪問介護事業所では、毎日朝夕と援助しているEさん(80歳代の単身男性)の陽性判定の連絡を5月某日にケアマネから受けた(発症9日目)。急ぎEさんの援助に入った職員を確認。保健所と相談し、発症日の2日前からEさんに関わった職員10名が濃厚接触者と認定された。Eさん宅でのヘルパー業務の大半は食事介助、口腔ケア、排泄、入浴介助等30分以上の身体介護だったが、職員は全員マスクを着用していたがフェイスシールドやゴーグル、ガウンを着用せずに援助していた。そのため濃厚接触と判断され、事業所の18人のヘルパーのうち半数以上の10名のヘルパーの自宅待機者を生むこととなった。

10名のヘルパーは全員PCR検査を実施(発症11日目)し、全員陰性を確認、さらに2週間の自宅待機後に健康状態を確認、全員復職した。

濃厚接触者となった10人のヘルパーは自宅待機となる前に26人の利用者の援助を行っていた。ケアマネに協力を依頼し、利用者(家族)への説明、訪問日や時間の変更等を行なった。26人の利用者で体調不良者が3人いたがPCR検査で陰性を確認した。

A事業所では今回の経験に学び、感染対策の実施、連絡や相談、情報共有と判断の手順を整備した。

## E 討論ポイント

- 1 多くの職員に陽性判定者や濃厚接触者が出た際の事業所内での対応(シフト調整だけでまかないきれない場合の対応や、事業所で担当する他の利用者への説明等)について考えてください
- 2 食事介助、口腔ケア、入浴介助など利用者がマスクを外して援助を行なう必要がある場合や長時間の身体介護を行う場合の留意点は何でしょうか？
- 3 在宅介護に携わるヘルパーの不安解消にどう取り組んでいけばよいでしょう。